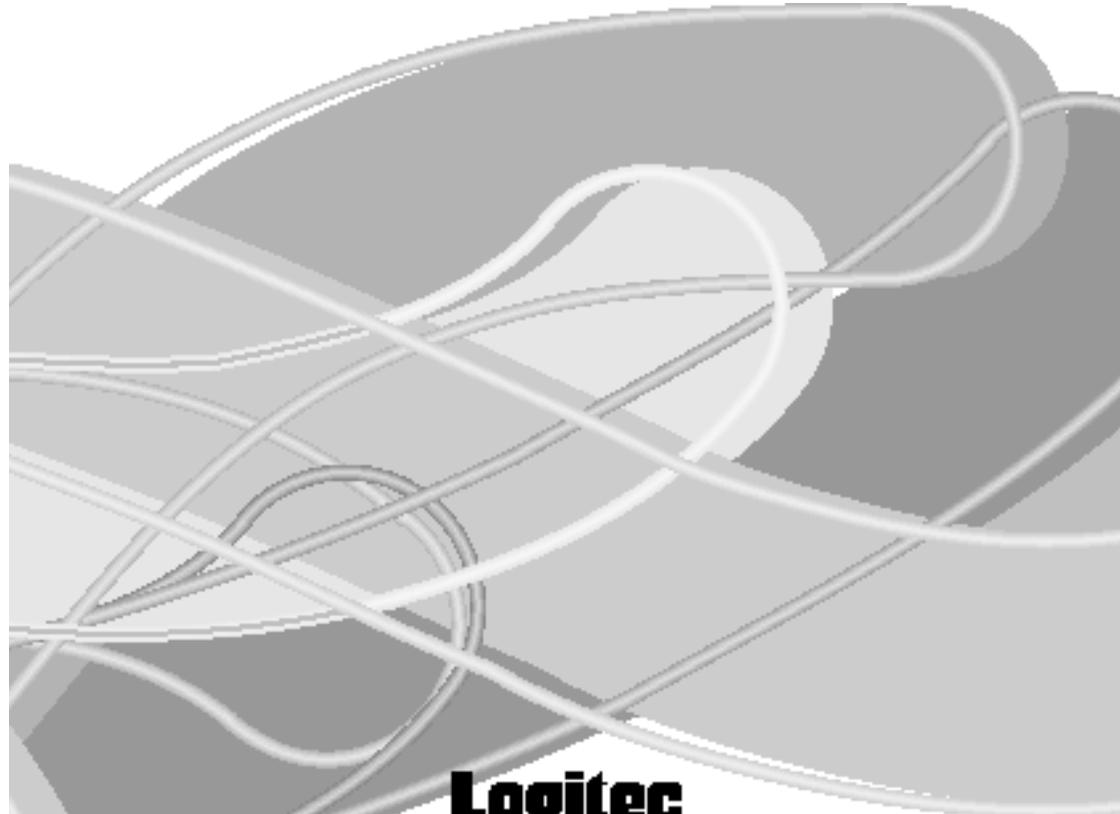


LMO-SK V05

INTERNAL SCSI MO UNIT

MOユニット・ ユーザーズマニュアル

LMO-FxxSK シリーズ



Logitec

目次

取扱い上のご注意	1
ごあいさつ	4
ご注意	4
第 1 章 製品のご紹介	5
1.1 製品の概要	5
1.2 使用環境について	6
1.3 各部の名称	8
第 2 章 接続について	10
2.1 接続の前に	10
2.2 接続の手順	15
第 3 章 接続後の作業	17
3.1 ソフトウェアのインストール	17
3.2 メディアのセット/取り出しについて	19
第 4 章 補足事項	22
4.1 トラブルシューティング	22
4.2 保守とその他	24
4.3 メディアID について	25
ハードウェア仕様	26

付属品の確認

MOユニット	1 台
イジェクトツール	1 個
取り付けネジ	4 個
「LogitecWare」 CD-ROM	1 枚
保証書	巻末に記載
MOユニット・ユーザーズマニュアル	本書

本製品は精密電子機器です。輸送時には必ず付属の梱包材をご使用ください。

取扱い上のご注意

本製品を正しく安全に使用するために

- ・本書では製品を正しく安全に使用するための重要な注意事項を説明しています。必ずご使用前にこの注意事項を読み、記載事項にしたがって正しくご使用ください。
- ・本書は読み終わった後も、必ずいつでも見られる場所に保管しておいてください。

表示について

- ・この「取扱い上のご注意」では以下のような表示（マークなど）を使用して、注意事項を説明しています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険性がある項目です。
 注意	この表示を無視して取扱いを誤った場合、使用者が障害を負う危険性、もしくは物的損害を負う危険性がある項目です。



三角のマークは何かに注意しなければならないことを意味します。三角の中には注意する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは感電に注意しなければならないことを意味します。



丸に斜線のマークは何かを禁止することを意味します。丸の中には禁止する項目が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは分解を禁止することを意味します。



塗りつぶしの丸のマークは何かの行為を行わなければならないことを意味します。丸の中には行わなければならない行為が絵などで表示されます。例えば、左図のマークは電源コードをコンセントから抜かななければならないことを意味します。

警告

接続時には電源コードを抜いてください。

本製品をパソコン本体に接続するときには、パソコン本体の電源をOFFにして、電源コードをコンセントから抜いてください。



万一、異常が発生したとき。

本体から異臭や煙が出た時は、ただちに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご相談ください。



分解 / 改造しないでください。

本製品は絶対に分解・改造しないでください。感電の危険があります。分解の必要が生じた場合は販売店にご相談ください。



警告

内部に異物を入れないでください。

本体内部に金属類を差し込まないでください。また、水などの液体が入らないように注意してください。故障、感電、火災の原因となります。

万一異物が入った場合は、ただちに電源を切り販売店にご相談ください。



水場で使用しないで下さい

浴槽、洗面台、台所の流し台、洗濯機など、水を使用する場所の近傍、湿気の多い地下室、水泳プールの近傍やほこりの多い場所では使用しないでください。電気絶縁の低下によって火災や感電の原因になります。



濡れた手で触らないで下さい。

本製品を濡れた手で触ると感電・故障の原因となります。



本製品を小さなお子様の手の届く場所へ放置しないで下さい。機器を損傷する可能性があるだけでなく、お子様がケガをする危険があります。



注意

接続時、感電／火傷等に注意してください。

- ・パソコン本体内部には感電の危険性がある部分があります。感電には十分注意してください。
- ・電源OFF直後のパソコン本体内部には、高温の部分(CPUなど)があります。火傷しないように注意してください。
- ・パソコン本体内部の金属部分や基板の裏側に、不注意に触れるとケガをすることがありますので注意してください。



ケガに注意



感電注意



高温注意

静電対策をしてください。

本製品およびパソコン本体には、静電気に弱い部品が使用されています。静電気のたまりやすいカーペットの上などに置かないでください。また、接続の前にパソコン本体の金属が露出している部分にふれて、体内の静電気を放電してから作業を行ってください。接続時、不要な部分には手を触れないでください。



その他の
強制事項

コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしないでください。また、金属片のある場所に置かないでください。発煙や接触不良などにより故障の原因になります。



その他の
禁止事項

注意

高温・多湿の場所、長時間直射日光の当たる場所での使用・保管は避けてください。屋外での使用は禁止します。また、周辺の温度変化が激しいと内部結露によって誤動作する場合があります。



本体は精密な電子機器のため、衝撃や振動の加わる場所、または加わりやすい場所での使用／保管は避けてください。



ラジオ・テレビ等の近くで使用しますと、ノイズを与える事があります。また、近くにモーター等の強い磁界を発生する装置があるとノイズが入り、誤動作する場合があります。必ず離してご使用ください。



本体が汚れた場合は必ず電源を切ってから、柔らかい布に水または中性洗剤を含ませ軽くふいてください。(本体内に垂れ落ちるほど含ませないよう気をつけてください。)揮発性の薬品(ベンジン・シンナーなど)を用いますと、変形・変色の原因になる事があります。



本製品を廃棄する場合は、お住まいの地方自治体で定められた方法で廃棄してください。



その他の
強制事項

メディアの取扱いについて

本製品で使用するメディアに関しては、購入したメディアの取扱説明書等に従って正しい取扱いをして下さい。傷がついたり折れ曲がったメディア等を本製品で使用すると故障の原因となります。



その他の
注意事項

ご注意

当社 DOS/V 対応製品は、一般に市販されている製品を想定して設計されています。しかし、接続確認については全ての機種を確認することは不可能ですので、代表的な製品のみで確認を行っております。

そのため、本製品を使用できない、または本製品の機能を使用できないパソコンが一部に存在する可能性があることは、ご了解いただきますようお願いいたします。特に自作パソコンやショップ組立てパソコンでは、コストの問題やパフォーマンスの追求のため、想定外の部品が使用されている場合があります。このような場合、相性問題などが発生する可能性が高くなることをご承知おきください。

ごあいさつ

この度は弊社製品をお買い上げいただきまして、誠に有り難うございました。本書は製品に関する設定 / 接続方法、機能 / 仕様等についてのご説明をいたしますので、ご使用前に必ずご一読いただきますようお願いいたします。

弊社製品によって、お客様のパソコン環境がより便利なものとなりますよう心からお祈りいたします。

ご注意

本書の一部または全部を弊社に無断で転載することは禁止されております。

本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審の点がございましたら、弊社テクニカルサポートまでご連絡くださいますようお願いいたします。

本製品および本書を運用した結果による損失、利益の逸失の請求等につきましては、一 項に関わらず弊社ではいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本書に記載されている機種名、ソフトウェアのバージョンなどは、本書を作成した時点で確認されている情報です。本書作成後の最新情報については、弊社テクニカルサポートまでお問い合わせください。

本製品の仕様、デザイン及びマニュアルの内容については、製品改良などのために予告なく変更する場合があります。

本製品を使用して保存したデータが、ハードウェアの故障、誤動作、その他どのような理由によって破壊された場合でも、弊社での保証はいたしかねます。万一に備えて、重要なデータはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。

弊社は、本製品の仕様 お客様の特定の目的に適合することを保証するものではありません。

本製品は、人命に関わる設備や機器、および高い信頼性や安全性を必要とする設備や機器（医療関係、航空宇宙関係、輸送関係、原子力関係等）への組み込み等は考慮されていません。これらの設備や機器で本製品を使用したことにより人身事故や財産損害等が発生しても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

本製品は日本国内仕様ですので、本製品を日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。また、弊社では海外での（海外に対してを含む）サービスおよび技術サポートを行っておりません。

*MS[®]、Windows[®]は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国での登録商標です。本書に記載されているパソコンの機種名等は各社の商標または登録商標です。

第 1 章 製品のご紹介

1 . 1 製品の概要

本製品は各社のDOS/Vパソコン、および日本電気株式会社のPC98-NXシリーズに内蔵可能な3.5型MOユニットです。

本製品の特徴

パソコン本体のベイに内蔵するタイプですので設置に場所を取りません。

世界標準のISO規格に準拠するMOメディアを使用できます。(使用可能なMOメディアの容量やタイプについては7ページの「使用可能なMOメディア」をご参照ください。)MOメディアの判別は自動判別で行われます。

LMO-F2360SKは、2.3GB MOメディア(GIGAMO 2.3GB規格)に対応しています。

LMO-F1354SKは1.3GB MOメディア(GIGAMO 1.3GB規格)に対応しています。

高速タイプのドライブとドライブ内部のキャッシュメモリにより、高速なアクセスを可能にしています。(平均シークタイム、ディスク回転数、キャッシュメモリの容量などについては、巻末の「ハードウェア仕様」をご参照ください。)

1.2 使用環境について

接続可能なパソコン

本製品は以下の環境条件を満たすパソコンに内蔵可能です。

各社 : DOS/V パソコン

日本電気株式会社 : PC98-NX シリーズ

5 インチベイ (もしくは 3.5 インチベイ) に空きがあり、SCSI インターフェースを標準搭載しているか、下記で説明する弊社 SCSI インターフェースを接続可能であること。

⚠️ ご注意

発売されているすべての機種で接続確認を行うことは不可能です。一部に対応できない機種が存在する可能性があることは、あらかじめご承知おきください。

パソコン本体の機種によっては、取付け金具などが別途必要な場合もあります。詳細についてはパソコン本体の取扱説明書をご参照ください。

SCSI インターフェースについて

パソコン本体に SCSI インターフェースが標準搭載されていない場合、以下の弊社 SCSI インターフェースのいずれかをご使用ください。

SCSI インターフェース	バス	内部ケーブル	対応機種
LHA - 600S / B	PCI	付属	DOS / V パソコン PC98 - NX シリーズ PC - 9800 シリーズ兼用
LHA - 600S / A		別売	
LHA - 600S			

上記 SCSI インターフェースのうちで、内部ケーブルが「別売」と書かれたものは、弊社ケーブル「CB-F50」が別途必要です。

⚠️ ご注意

上記 SCSI インターフェースは、以下のパソコンでは使用できません。

富士通株式会社 FMV-5133DPS , FMV-5150DPS

使用可能な OS

本製品は以下のOSで使用することができます。(いずれも日本語バージョンに限ります。また、パソコン本体がサポートしていないOSでは使用することができません。)

マイクロソフト株式会社	Windows XP Home Edition/Professional
	Windows Me
	Windows 2000
	Windows 98 (Second Edition 含む)
	Windows 95
	Windows NT 4.0

使用可能な MO メディア

本製品で使用可能な MO メディアは以下の通りです。

		LMO - F2360SK	LMO - F1354SK	LMO - F654SK
128MB	標準			
	OW			
230MB	標準			
	OW			
540MB	標準			
	OW			
640MB	標準			
	OW			
1.3GB	標準			×
	OW			
2.3GB	標準		×	×
	OW			

標準 = ノーマルタイプ OW = オーバーライトタイプ
 = 使用可能ですが、書き込み速度は通常の MO ディスクと同等になります。
 = 使用可能 × = 使用不可 - = 現在このタイプは市販されていません

⚠️ ご注意

本製品では 128MB の MO メディアへの書き込みが可能ですが、これを行った 128MB の MO メディアを、他の MO ユニットで読み込めるかどうかは、保証の範囲外とさせていただきます。(本製品と同じ MO ユニットでの読み込みは可能です。)

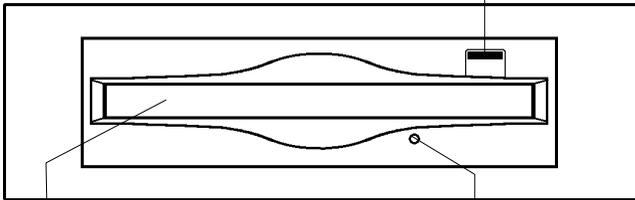
これは 128MB の MO ユニットには、初期のドライブを使用した製品があり、レーザー光の強度が最新のドライブと異なる可能性があるためです。他の MO ユニットとのデータ交換は、230MB 以上の MO メディアをご使用ください。

1.3 各部の名称

本製品前面

イジェクトボタン (アクセス表示ランプ)

Windowsが起動していない状態でMOメディアを取り出したいときに使用します。また、このボタンはアクセスを表示する機能もあります。MOメディアに対して読み書きが行われているときに点灯します。



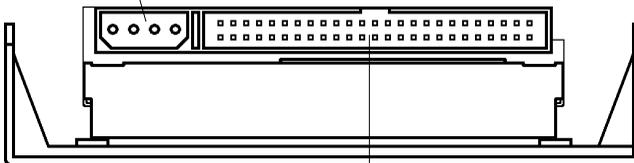
メディア挿入口
MOメディアをセットする部分です。

強制イジェクトホール
何かの原因でMOメディアが排出されなくなった場合に使用します。

本製品背面

電源コネクタ

パソコン本体の内部電源ケーブルを接続します。



SCSI コネクタ

内部 SCSI ケーブルで SCSI インターフェイスボードの内部 SCSI コネクタと接続します。(内部 SCSI ケーブルは別売または SCSI インターフェイスボード付属のものを使用します。)

本製品
天面

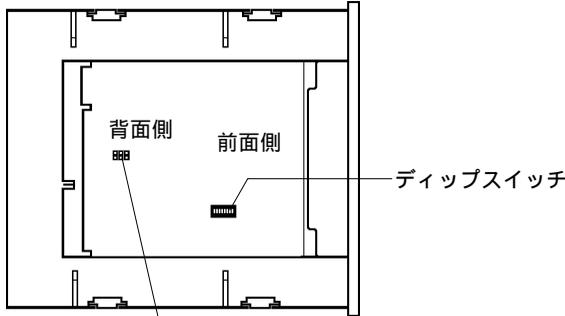
ディップスイッチ (LMO-F1354SK、LMO-F654SK のみ)

- ・本製品の ID ナンバーを設定します。設定方法については、第 2 章をご参照ください。

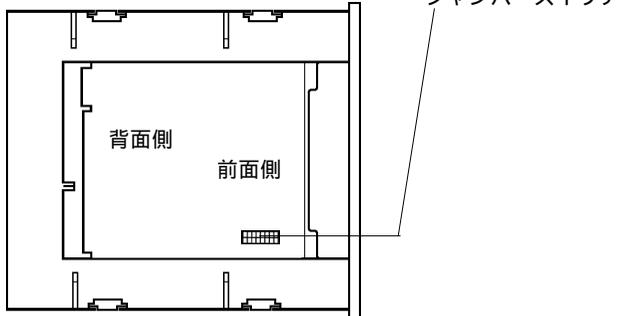
ジャンパースイッチ

- ・LMO-F1354SK、LMO-F654SK では、本製品内蔵ターミネータの有効 / 無効を設定します。設定方法については、第 2 章をご参照ください。
- ・LMO-F2360SK では内蔵ターミネータの有効 / 無効の設定と ID ナンバーの設定を行います。設定方法については第 2 章をご参照ください。

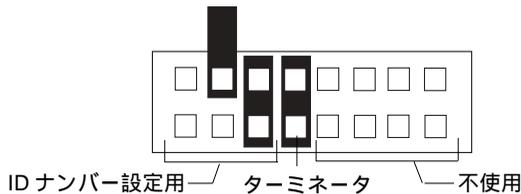
天面図
LMO-F1354SK
LMO-F654SK



天面図
LMO-F2360SK



LMO-F2360SKのジャンパースイッチの役割



第2章 接続について

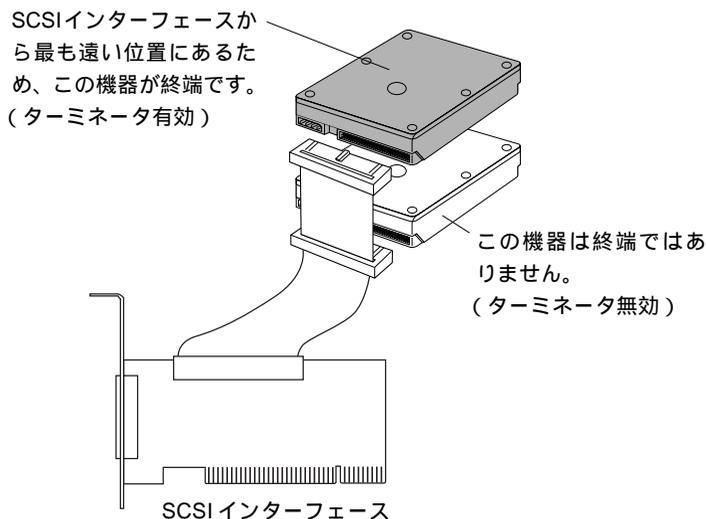
2.1 接続の前に

本製品を接続する前に、背面のジャンパスイッチでターミネータの有効/無効とIDナンバーを設定してください。

ターミネータについて

SCSI では接続の終端（SCSI インターフェースから最も遠い位置）に接続される機器のターミネータを「有効」に設定し、その他の機器のターミネータは「無効」に設定しなければなりません。（本製品のターミネータは出荷時「有効」に設定されています。）

本製品を終端以外の位置に接続する場合は、次ページの手順でターミネータを「無効」に設定してください。



⚠️ ご注意

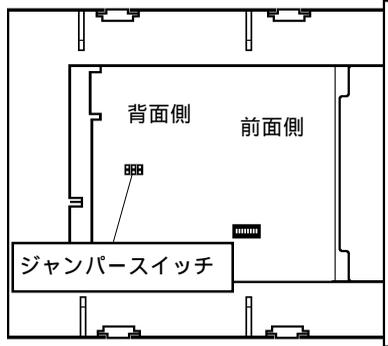
本製品以外に内蔵 SCSI 機器を使用しない場合は、必ず本製品が終端となります。（ターミネータ有効）

ターミネータの設定方法

本製品では、ジャンパースイッチでターミネータの有効 / 無効を設定することができます。出荷時は「有効」に設定されていますので、終端にならない位置に接続する場合には、ピンセットなどで下図のジャンパープラグを変更してください。

 = ジャンパープラグをセットする位置

LMO-F1354SK
LMO-F654SK
の場合



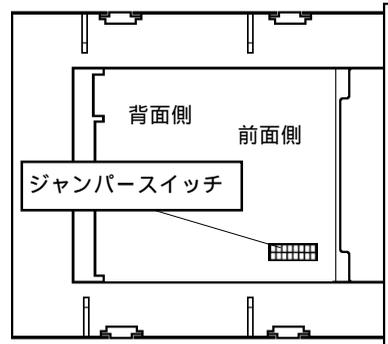
ターミネータ：有効
(出荷時設定)



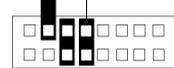
ターミネータ：無効



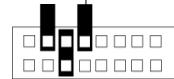
LMO-F2360SK
の場合



ターミネータ：有効
(出荷時設定)



ターミネータ：無効



LMO-F2360SKでのターミネータの設定は左から4列目のジャンパースイッチで行います。

 **ご注意**

- ・ターミネータの設定は上記以外の設定にしないでください。
- ・ターミネータは必ず終端の位置に接続された機器だけを有効にしてください。不要に多くのターミネータを有効にすると、過電流で機器を損傷する場合があります。

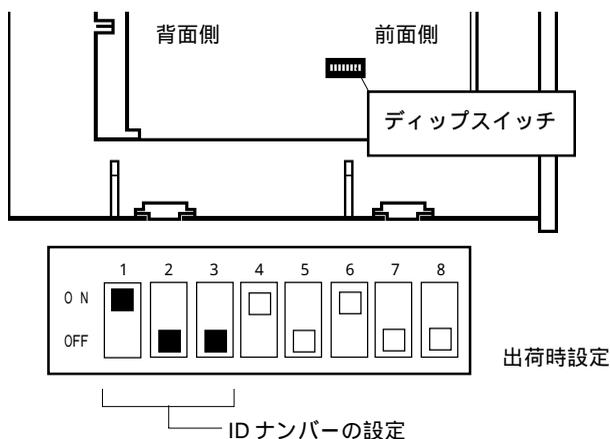
IDナンバーの設定

IDナンバーはSCSI機器を区別するための番号です。「0」～「6」の範囲で任意の番号を設定できますが、併用するSCSI機器間で重複があってはいけません。(例えばIDナンバー「4」に設定された機器が、2台以上同時に接続されてはいけません。)

本製品は出荷時設定でIDナンバー「4」に設定されていますので、外付け/内蔵のSCSI機器でこれと重複するものがある場合は、設定を変更してください。

LMO-F1354SK、LMO-F654SKのIDナンバー設定方法

LMO-F1354SK、LMO-F654SKの場合、IDナンバーの設定はディップスイッチにて行います。下図をご参照ください。



ID 0	ID 1	ID 2	ID 3																								
<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	■	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>□</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	□	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	■	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	■
1	2	3																									
■	■	■																									
1	2	3																									
■	■	□																									
1	2	3																									
■	■	■																									
1	2	3																									
■	■	■																									
ID 4	ID 5	ID 6																									
<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>□</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	□	■	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>□</td> <td>■</td> </tr> </table>	1	2	3	■	□	■	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>■</td> <td>□</td> </tr> </table>	1	2	3	■	■	□							
1	2	3																									
■	□	■																									
1	2	3																									
■	□	■																									
1	2	3																									
■	■	□																									

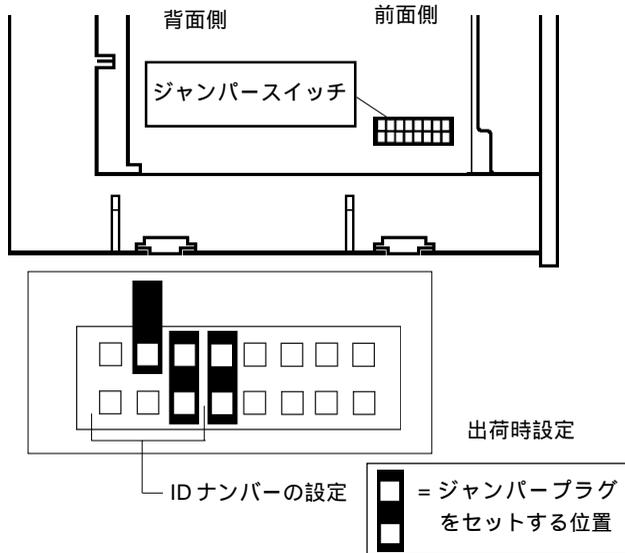
(出荷時)

! ご注意

IDナンバーの設定以外のディップスイッチは、初期設定のまま変更しないでください。

LMO-F2360SK の ID ナンバー 設定方法

LMO-F2360SKの場合、IDナンバーの設定は、左側の1～3列目のジャンパープラグにて行います。下図をご参照ください。



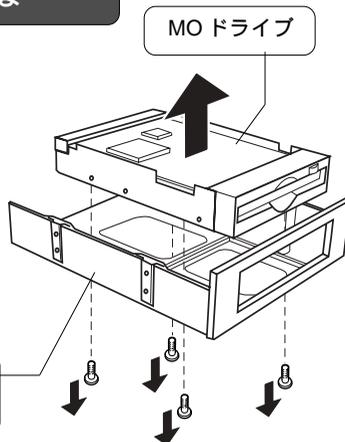
ID0	ID1	ID2	ID3
ID4	ID5	ID6	

(出荷時)

3.5 インチベイに接続する場合は・・・

本製品は、5 インチベイ用のハウジングが取り付けられた状態で出荷されています。そのため、本製品を3.5インチベイに接続したい場合は5インチベイ用のハウジングを外す必要があります。

5インチベイ用のハウジングを外したい場合は、右図のように底面のネジ4本を取り外して、MOドライブを上を持ち上げてください。



⚠️ ご注意

- ・ 本製品を5インチベイに接続する場合、この作業は必要ありません。
- ・ 3.5インチベイはパソコン本体の機種によって形状や取り扱いがまったく異なります。そのため、本製品を3.5インチベイに接続する場合は、パソコン本体の取扱説明書にしたがって作業を行ってください。

2.2 接続の手順

IDナンバー、ターミネータの設定が終わったら本製品をパソコンに接続します。

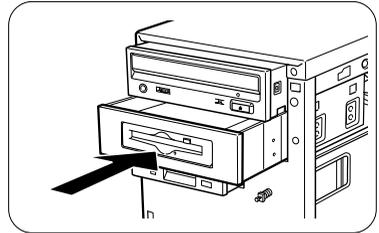
⚡ 重要なお注意

接続の前に必ず本製品、パソコン本体、およびそこに接続されたすべての周辺機器の電源をOFFにして、パソコン本体の電源コードをコンセントから外してください。接続時に内部ショートが発生すると電源がONになる場合があります。感電や火災を防止するため、必ず電源コードをコンセントから外してください。

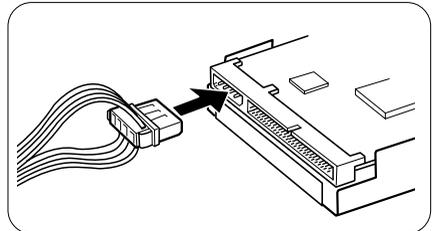
接続例

ここでご紹介するのは、あくまでも一例です。パソコンの種類によっては特殊な金具を必要とするものなどもありますので、接続に際してはご使用のパソコンの取扱説明書をご参照ください。また、SCSI インターフェースを新規に接続する場合は、SCSI インターフェースの取扱説明書をご参照の上、あらかじめ取り付けおいてください。

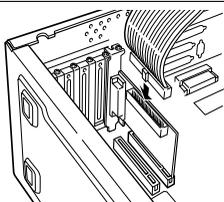
パソコンのサイドカバー、フロントパネル等を取り外し本製品を5インチベイに挿入します。



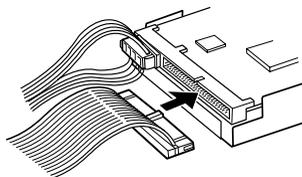
パソコン本体の内部電源ケーブルを本製品の電源コネクタに接続します。このコネクタは正しい方向でしか接続できない形状になっています。



内部 SCSI ケーブルで SCSI インターフェイスボードの内部 SCSI コネクタと、本製品の SCSI コネクタを接続します。このコネクタは正しい方向でしか接続できない形状になっています。(内部 SCSI ケーブルは SCSI インターフェイスボード付属のものか、別売ケーブル「CB-F50」をご使用ください。)



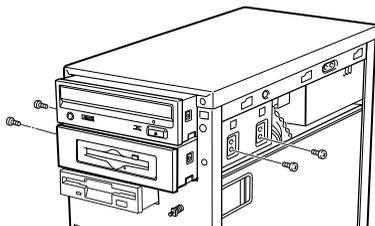
SCSI インターフェイスボード側



本製品側

本製品を完全に挿入して、付属のネジで固定します。ネジ止めの方法はパソコン本体によって異なりますが、多くの場合、横から止めます。

接続が終了したら、パソコンのカバー等を取付けてください。



接続結果の確認

接続が終了したら以下の手順で、本製品が正しく認識されているかを確認してください。

パソコンの電源を ON にして Windows のシステムを起動します。システム起動後、「マイコンピュータ」をダブルクリックして開いてください。以下のアイコンが新しく登録されていたら本製品は正しく認識されています。



Windows XP で表示されるアイコン



Windows Me, 98, 2000 で表示されるアイコン

確認後、本製品付属のソフトウェアのインストールを行います。第3章へお進みください。

本製品が認識されていない場合は「4.1 トラブルシューティング」を参照して、チェックを行ってください。

第3章 接続後の作業

3.1 ソフトウェアのインストール

本製品には、MOメディアを使用する上で必要なソフトウェアが添付されています。本製品付属の「LogitecWare」CD-ROMをCD-ROMドライブにセットすると自動起動する「セットアップランチャー」から、「ディスクフォーマッタ」と「イジェクトコントローラ」をそれぞれインストールしてください。

ディスクフォーマッタのインストール

1. 「ディスクフォーマッタ」のアイコンをクリックして、選択状態にします。
2. 「セットアップの起動」をクリックします。



3

イジェクトコントローラのインストール

1. 「イジェクトコントローラ」のアイコンをクリックして、選択状態にします。
2. 「セットアップの起動」をクリックします。



Windows 95、NT 4.0ではイジェクトコントローラはインストールできません。メディアの取り出しはOS標準の機能をご使用ください。



参考

「Logitec Ware」CD-ROM内にはこの他にもデータをフォルダ単位でバックアップ可能な「フォルダミラーリングツール」や、MOメディアの複製を作成する「MOデュプリケータ」等、便利なソフトウェアが収録されています。必要に応じてご利用ください。

MO メディアのフォーマットは

フォーマットとは、メディアを初期化し、データの読み書きができるようにメディア内部の形を整える作業のことです。この形を、**フォーマット形式**と呼びます。フォーマット形式は、例えばWindowsとMacintoshなど、OSにより使用できる種類が異なります。

MOメディアやハードディスクなどの記憶装置は、ご使用のOS環境にあった形でデータの読み書きを行う前にフォーマットする必要があります。

本製品をご使用の場合、MOメディアのフォーマットは付属のソフトウェア「Logitec ディスクフォーマッタ」を使用して行います。

既にご使用のOS環境にあった形でフォーマット済みのメディアを購入されている場合、この作業は必要ありません。

「Logitec ディスクフォーマッタ」の起動方法

インストール終了後、ディスクフォーマッタを起動する場合は、「スタート」ボタンをクリックして表示されるメニューから、「(すべての)プログラム」 「Logitec」 「ディスクフォーマッタ」とポイントして、「Logitec ディスクフォーマッタ」をクリックしてください。(デフォルトの状態ですインストールした場合)



フォーマッタが起動したら、MOメディアのフォーマットを行います。フォーマットの手順については「ディスクフォーマッタ」のユーザーズガイドをご参照ください。



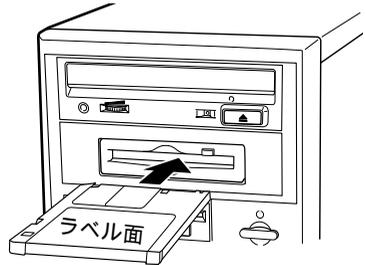
ご注意

フォーマットを行うと記録されているデータはすべて消去されます。フォーマットを開始する前に、メディア内にデータがあるかどうか、また、ある場合は消去しても良いかどうかを事前にご確認ください。

3.2 メディアのセット/取り出しについて

メディアをセットするには

本製品にMOメディアをセットする場合は、下図の方向でメディア挿入口に挿入してください。(間違った方向では挿入できません。)



！ ご注意

本製品にはMOメディア以外のメディアは挿入しないでください。フロッピーディスク等を無理に挿入すると機器を損傷します。

3

メディアを取り出すときは

Windowsには遅延書き込み機能(*1)があるため、メディアを取り出すときは本製品前面のイジェクトボタンを使用するよりも、ソフトウェアによる取り出しを行ったほうが安全です。

取り出しの手順は使用するOSによって異なります。次ページをご参照ください。

*1 書き込みデータをメモリ上のキャッシュに蓄積することによって、見かけ上高速に書き込みを終了する機能。パフォーマンスは向上するが、書き込みデータがメモリ上に残った状態でMOメディアを取り出すと、データが失われる危険性がある。

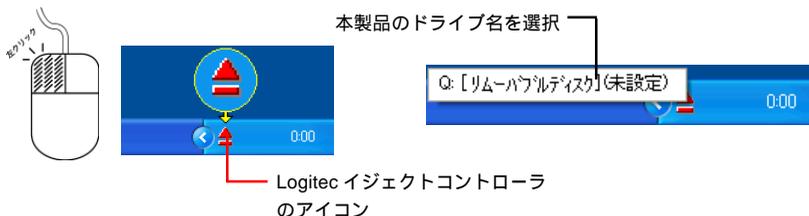
3.2 メディアのセット/取り出しについて

Windows XP、Me、98、2000 の場合

MOメディアの取り出しは、付属のソフトウェア「Logitech イジェクトコントローラ」を使用して行ってください。

「Logitech イジェクトコントローラ」はインストール後タスクトレイに常駐します。

本製品を接続した状態で、このアイコンを左クリックし、本製品のドライブ名を選択してください。



この操作を行うと、MOメディアが1cmほど排出されますので、静かに引き出してください。

3

Point

ポイント

「Logitech イジェクトコントローラ」を使用しない場合、マイコンピュータ内の本製品のアイコンを右クリックして表示されるメニューから「取り出し」を選択してもメディアの取り出しが可能です。

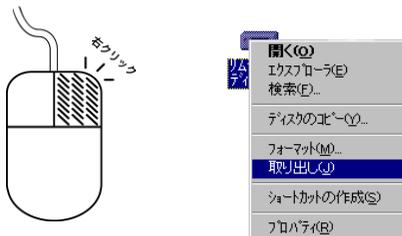
!

ご注意

本製品前面のイジェクトボタンはWindowsのシステムが起動していないときに使用します。Windows 稼動中は使用しないでください。

Windows 95、NT 4.0 の場合

Windows 95、NT 4.0 上でMOメディアを取り出す場合は、「マイコンピュータ」に登録された本製品のアイコン(リムーバブルディスク)を右クリックして、表示されるメニューから「取り出し」を選択してください。





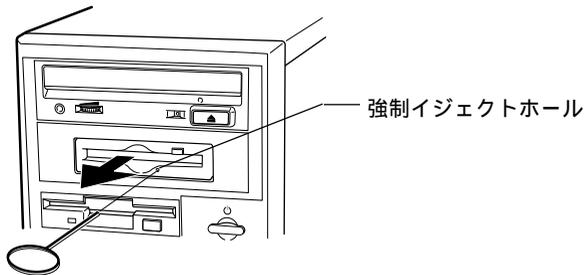
ご注意

- ・Windows XP, 2000, NT 4.0 で MO メディアを取り出すには、管理者権限を持つグループ（例えば Administrators グループ）のメンバーとしてログオンする必要があります。
- ・Windows NT 4.0 では、NTFS 形式でフォーマットされた MO メディアをシステムが起動している状態で取り出すことはできません。これを取り出したい場合は、システムを終了してからイジェクトボタンを押してください。

メディアが取り出せなくなった場合

何かの原因でメディアが取り出せなくなってしまった場合は、まず本製品のアクセス表示ランプが点灯していないかをチェックしてください。点灯していない場合には、一度システムを終了して、パソコン本体の電源を入れ直してください。それでも状態が改善されない場合は、以下の手順でメディアを強制排出することができます。これを行なうときには、必ずパソコン本体の電源をOFFにしてください。

本製品付属のイジェクトツールを強制イジェクトホールに差し込んで押ししてください。



メディアが 2 ~ 3 cm ほど排出されますので、静かに引き出してください。



ご注意

パソコン本体の電源がONの状態では、絶対に強制イジェクトを行わないでください。

第4章 補足事項

4.1 トラブルシューティング

本製品を接続するとシステムが起動しない。

本製品のIDナンバーが併用している他のSCSI機器と重複していないかどうかを確認してください。

本製品がリムーバブルディスクとして認識されない。

ケーブルの接続に接触不良等がないかどうか確認してください。
内部電源ケーブルの接続に問題がないかどうか確認してください。
接続に使用しているSCSIインターフェースのドライバはインストールされていますか？

Windows Me, 98/95の場合は、「コントロールパネル」 「システム」 「デバイスマネージャ」タブを開いて、SCSIインターフェースが認識されているかどうか、「！」マークなどがついていないかどうかを確認してください。

Windows 2000の場合は、「コントロールパネル」 「システム」 「ハードウェア」タブを開いて、表示される「デバイスマネージャ」ボタンをクリックし、SCSIインターフェースが認識されているかどうか、「！」マークなどがついていないかどうかを確認してください。

MOメディアのアクセス時にエラーが発生する。

MOメディアは汚れていませんか？ ディスク・クリーニングを行ってみてください。

MOメディアの不良も考えられます。別のディスクで試してください。これで問題がなければ、エラーが発生するMOメディアのデータをバックアップして、再フォーマットを行ってください。

MOメディアの取り出しができない。

「3.2 メディアのセット/取り出しについて」をご参照ください。

特定のMOメディアをアクセスできない。

ご使用の機種名をご確認ください。機種により使用できるMOメディアの容量が異なります。詳しくは本書7ページ、「使用可能メディア」をご参照ください。

そのMOメディアはフォーマットされていますか？ 一般にMOメディアは物理フォーマット済みで発売されていますが、物理フォーマットのみではアクセスはできません。本書記載の方法でフォーマット（論理フォーマット）を行ってください。

MOメディアではスーパーフロッピーフォーマットの形式が一般的ですが、ハードディスク形式やアップルコンピュータ社のMacintoshシリーズ用にフォーマットされたディスクもあります。異なるシステムとデータ交換を行う場合には、スーパーフロッピーフォーマットのMOメディアを使用してください。（MacintoshシリーズでスーパーフロッピーフォーマットのMOメディアを使用するには、MacOS標準のユーティリティ「PC Exchange」が必要です。）

MOメディアに書き込みができない。

MOメディアのライトプロテクト・ノッチがプロテクト側に設定されていませんか？

特定のソフトウェア（ディスク修復ツールなど）でMOメディアを使用できない。

一部のユーティリティソフトウェアでは、動作対象がハードディスクのみになっている場合があります。ソフトウェアメーカーに問い合わせ、そのソフトウェアがMOメディアを動作対象としているかどうかを確認してください。

一部のソフトウェアでは、動作中のディスク交換の問題などからインストール対象をハードディスクに限定している場合があります。ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

その他：弊社Webサイトについて

弊社ではインターネット上にホームページを開設しています。ホームページにはソフトウェアのダウンロードコーナーや、各種製品に関するQ&Aコーナーがあります。また、「サポート情報」では「お問い合わせ用紙」や「修理依頼書」などが、PDF形式でダウンロード可能になっていますのでご活用ください。

ホームページアドレス：<http://www.logitech.co.jp/>

4 . 2 保守とその他

メディアのクリーニングについて

MOメディアは別売のメディアクリーニングキットを使用してクリーニングすることができます。使用環境/頻度によってクリーニングの時期は異なりますが、定期的なクリーニングを推奨いたします。クリーニングの方法については、クリーニングキットの取扱説明書をご参照ください。

本製品用のメディアクリーニングキットは、以下の型番で弊社より販売されております。

型番：LMO-330-02

レンズ・ヘッドのクリーニングについて

空気中に浮遊するほこり、ちり、およびタバコの煙などが、本製品内部のレンズ・ヘッドに付着すると性能が低下することがあります。

本製品内部のレンズ・ヘッドは別売のレンズクリーニングキットを使用してクリーニングすることができます。使用環境/頻度によってクリーニングの時期は異なりますが、定期的なクリーニングを推奨いたします。クリーニングの方法については、クリーニングキットの使用方法をご参照ください。

本製品用のレンズ・ヘッドクリーニングキットは、以下の型番で弊社より販売されております。

型番：LMO-640-02



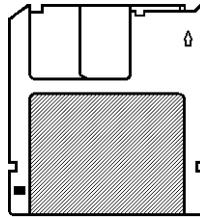
ご注意

- ・ レンズ・ヘッドクリーニングキットを使用する場合は、パソコン本体に接続した状態で、電源を供給する必要があります。
 - ・ レンズ・ヘッドクリーニングキットは必ず弊社販売の「LMO-640-02」をご使用ください。市販のものを無理に使用すると、機器を損傷する場合があります。
-

MOメディアのラベルについて

MOメディアにラベルを貼付する場合は、必ず指定の位置に1枚だけ貼ってください。また、貼った後ではがれないようにMOメディアの両面をしっかり押さえてください。(最近のラベルには再剥離可能なようにのりが弱いものもあります。そのようなラベルはできるだけ使用しないでください。)

不適切な位置に貼ったり、2枚貼りするとMOユニット内部でラベルがはがれて、MOメディアがイジェクトできなくなる恐れがあります。



裏面に回る部分をはがれやすいのでしっかり押さえます。

斜線の部分からはみ出さないように貼ります。

4.3 メディアIDについて

本製品は「メディアID」機能に対応しています。以下のロゴマークはメディアID機能対応を示すものです。



メディアIDとは、メディアID対応のMOメディアに著作権保護の目的で記録された変更不可能な固有の番号です。今後ブロードバンドコンテンツ配信サービスなどで、メディアIDを前提とした著作権保護が施されたコンテンツの配信が予定されますが、このようなコンテンツを保存/再生するには、メディアIDに対応したMOメディアおよびMOドライブが必要です。詳細についてはインターネット上の弊社Webサイトをご参照ください。

本製品のメディアID機能を使用するためにはドライブが必要となります。メディアID対応ドライブは、付属のCD-ROM「LogitecWare」内に収録されています。また、最新バージョンについては、弊社Webサイトにて公開中です。

ハードウェア仕様

機種名		LMO- F2360SK	LMO- F1354SK	LMO- F654SK
メディアタイプ		3.5 型MOメディア *1		
ディスクあたりの記憶容量		128MB/ 230MB 540MB/ 640MB 1.3GB/ 2.3GB	128MB/ 230MB 540MB/ 640MB 1.3GB	128MB/ 230MB 540MB/ 640MB
平均シークタイム		23 ms		
ディスク回転数		6094 rpm *2	5455 rpm *3	5455 rpm
インターフェース		UltraSCSI		
最大同期転送速度		20MB/ s *4		
キャッシュメモリ		8 MB	2 MB	
環境条件 *5	動作時		パソコン本体に準じる	
	保管時	温度	- 10 ~ 50	
		相対湿度	10% ~ 85%	
入力電圧		DC + 5V ± 5 %		
消費電力 (定格)		7.0 W	6.0 W	
外形寸法 幅 × 高さ × 奥行き		149 × 42.8 × 180mm *6		
質量		650g		

*1 対応メディアについては本書の 1 . 2 節参照

*2 2.3GB MO メディア使用時は 3640rpm/4094rpm/4853rpm

1.3GB MO メディア使用時は 4094rpm/4853 rpm

(書き込み位置により自動切換え)

*3 1.3GB MO メディア使用時は 3637rpm

*4 理論値

*5 ただし結露なきこと

*6 突起部を除く

保証と修理について

製品には、保証書が添付されています。

保証書は販売店で所定事項を記入してお渡ししています。記載内容をご確認の上、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています。お買い上げ日より有効です。

サービスを依頼される場合

修理品については、弊社修理受付窓口にお送りいただくかお求めいただいた販売店へご相談ください。

故障かどうか判断がつかない場合は、事前に弊社テクニカルサポートにお問い合わせください。

保証期間中の修理につきましては、保証規定に従い修理いたします。

保証期間終了後の修理につきましては、有料となります。ただし、製品終息後の経過期間によっては、部品などの問題から修理できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

オンラインユーザー登録について

弊社Webサイトより、ユーザー登録いただくことをお勧めします。

L-site <http://www.logitec.co.jp/>

登録いただいたお客様を対象に、ご希望に応じて弊社発行のメールマガジン、弊社オンラインショップからの会員限定サービスをご案内させていただきます。また、登録いただいた製品に関連する重要な発表があった場合、ご連絡させていただくことがあります。

個人情報の取り扱いについて

ユーザー登録・修理依頼・製品に関するお問い合わせなどでご提供いただいたお客様の個人情報は、修理品やアフターサポートに関するお問い合わせ、製品およびサービスの品質向上・アンケート調査等、これらの目的の為に関連会社または業務提携先に提供する場合、司法機関・行政機関から法的義務を伴う開示請求を受けた場合を除き、お客様の同意なく第三者への開示はいたしません。お客様の個人情報は細心の注意を払って管理いたしますのでご安心ください。

サポート / 修理受付窓口のご案内

製品に対する技術的な質問や、取扱説明書に対するお問い合わせ

次の ~ の内容をご確認の上、弊社「テクニカルサポート」までお問い合わせください。
FAXにてお問い合わせの場合は、お客様のご連絡先を必ずご記入ください。

現在の状態(できるだけ詳しく)

製品の名称/シリアル番号

弊社テクニカルサポート連絡先(ナビダイヤル)

TEL. 0570-022-022 FAX. 0570-033-034

受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 18:00

月曜日 ~ 金曜日(祝祭日、夏期、年末年始特定休業日を除く)

携帯電話(FAX)、PHS(TEL、FAX共)、IP電話(TEL、FAX共)、ひかり(光)電話はご利用になれません。

弊社へ修理品を発送される場合の送付先・注意事項

郵送または宅配便にて修理依頼される場合、以下の点をご確認の上、弊社修理受付窓口まで製品をご送付ください。

- ・送料および、梱包費用は保証期間の有無を問わずお客様のご負担になります。
- ・保証期間中の場合は、保証書を商品に添付してください。
- ・必ず、「お客様のご連絡先(ご住所/電話番号)」「故障の状態」を書面にて添付してください。
- ・保証期間経過後の修理については、お見積もりの必要の有無、または修理限度額および連絡先を明示のうえ、製品に添付してください。
- ・ご送付の際は、緩衝材に包んでダンボール箱(本製品の梱包箱、梱包材を推奨します)等に入れて、お送りください。

弊社修理受付窓口(修理品送付先)

〒396-0192 長野県伊那市美すず六道原 8268

ロジテック株式会社 修理サポートセンター(3番受入窓口)

TEL : 0265-74-1423 FAX : 0265-74-1403

受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

月曜日 ~ 金曜日(祝祭日、夏期、年末年始特定休業日を除く)

上記電話番号では、修理依頼品や各種サービス()等に関するお問い合わせ以外は承っておりません。製品に関する技術的なお問い合わせや修理が必要かどうかについてのお問い合わせは、弊社テクニカルサポートにお願いいたします。

データ消去サービスやオンサイト保守サービス、ピックアップサービス等の各種サービスを指します。これらのサービスは対象製品が限定されています。また、有償の場合や対象期間内無償の場合など、内容は異なります。詳しくは弊社Webサイトをご参照ください。

弊社Webサイトでは、修理に関するご説明やお願いを掲載しています。修理依頼書のダウンロードも可能です。

お送りいただいた控えがお手元に残る方法でお送りいただきますよう、お願いいたします。

Logitech MOユニット・ユーザーズマニュアル

2006年 4月改訂 LMO-SK V05

製造元 : ロジテック株式会社